

りょう



4
Apr. 2019
No.765

さあ、次のステージへ



奥州鎮護 簷峯寺

宮城県指定有形文化財

黄金の雲海

春と秋の早朝、簷岳山を囲うように雲海が現れ、朝日によって黄金に輝く。

夫婦杉(姥杉群)

樹齢900年を超える杉の大木。2本並ぶ姿は、仲睦まじい。その周囲に、太郎杉、次郎杉、三郎杉、四郎杉がある。

秋の山唄発祥の地の碑

寛文の鐘

原田甲斐の凶刃に倒れた伊達宗元公の供養の意味も含め嫡子の伊達家元が寄進したもの。NHKの「ゆく年くる年」でも紹介された名鐘。

白山堂

「白山妙理菩薩」を本尊とする。秋にはドウダンツツジが色づき、冬には「白山祭」の「御弓神事」が行われる。

簷 峯寺は、古来から殺生禁断、女人禁制の聖地であつた大門から一步踏み入れば、仙台藩と言えどもいかなる罪人も捕えることができなかつた唯一の村外地でした。

簷峯寺は、宝亀元(770)年に光仁天皇の勅願で加賀の白山神社を勧請し、宝亀6(775)年に大伴駿河麻呂が白山堂を建立したことが始まりとされます。

その後、坂上田村麻呂が観音堂を建立し、法相宗の延鎮が霧岳山正福寺として開基。さらに、嘉祥2(849)年に慈覚大師円仁が中興し、無夷山簷峯寺として天台宗の寺院となりました。

観音堂とその周囲の18の坊(現存しない坊もある)を含む一山寺院の総称を「無夷山簷峯寺」としています。

田村麻呂將軍の念持仏で、観音堂の本尊の十一面観音は、秘仏として33年に一度、御開帳されます。

なお、蝦夷との戦いに勝利した田村麻呂將軍が、再び蜂起しないようにと白山堂に念じて地面に矢を刺したところ、矢に根と葉が生じて「のだけ」



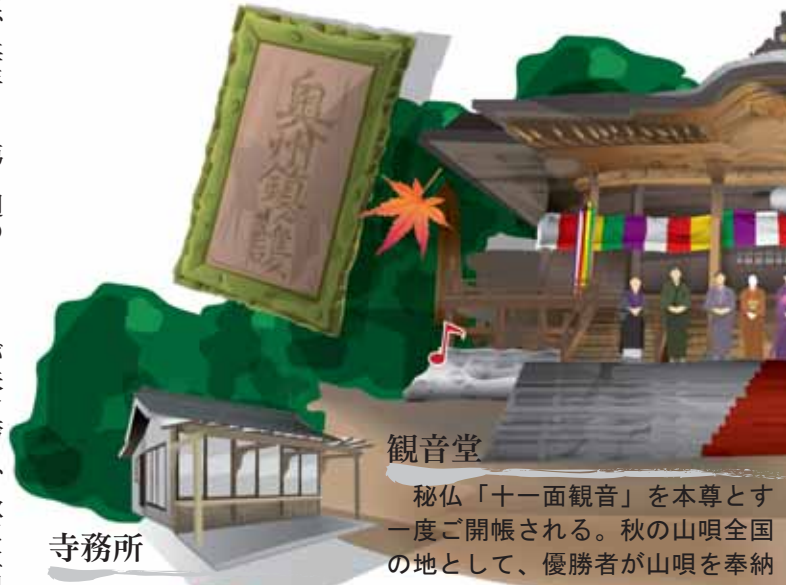
カタクリの群生地

4月上旬に、篔岳山に春を告げるように、可憐な花が一面に広がる。

無

夷山篔峯寺は、涌谷町の中心に位置し、標高236mの篔岳山の山頂に、仙北地域を見守るかのよう鎮座します。

大同2(807)年に坂上田村麻呂建立と伝えられる十一面観音を本尊とする観音堂(現存の観音堂は嘉永4(1851)年に再建は、県下最大規模の密教堂として雄大な姿を保ち続けています。そのことが評価され、平成31年2月15日に、宮城県教育委員会によって「宮城県指定有形文化財(建造物)」として指定されました。



観音堂

秘仏「十一面観音」を本尊とす一度ご開帳される。秋の山唄全国の地として、優勝者が山唄を奉納州鎮護」と書かれた大きな額がか

寺務所

また、毎年1月第4週の日曜日に、白山堂(白山妙理菩薩を本尊)前で、その年の天候を占う「御弓神事」で知られる「白山祭」を含む「篔峯寺の正月行事」も、「宮城県指定無形民俗文化財」の指定を受けています。

境内地には、樹齢900年を超える「夫婦杉」をはじめとした「姥杉群」や、涌谷伊達家の邑主伊達安芸宗重公が凶刃に倒れた「寛文事件」とも縁深い「寛文の鐘」など、涌谷町のさまざまな時代を今に伝える文化財が多数。春には境内地北側斜面にカタクリ

が咲き誇り、秋には白山堂前のドウダンツツジが色づくなど、四季折々の美しい景観があります。

十一面観音に守られた平和な世の中で、作神様である白山妙理菩薩のもとで農耕に精を出し豊作を享受できる構図を体現している篔峯寺。

観音堂にも掲げられているように「奥州鎮護」の霊場として、この地にあり続けてきた篔峯寺が、私たちの暮らし地にとつてどのような存在であるのか、改めて紹介します。



仁王門・ほほえみ仁王像

篔峯寺の表参道にある仁王門。世にも珍しい、ほほえみを浮かべた仁王さまが出迎える。

となったという伝説があり、そのことが「篔岳」の地名の由来になったと言ひ伝えられています。

戦

国時代には、この地域を肩を並べて治めていた大崎氏と葛西氏が、一揆によって焼失した観音堂を再興するため、観音堂の東側を葛西氏が、西側を大崎氏が寄進したと伝えられます。一山の僧が総出する白山祭の御弓神事では、現在でも東側の僧は葛西氏のために、西側の僧は大崎氏のために祈ります。

また、農耕が盛んなこの地において、作神様としても信仰する白山妙理菩薩を本尊とする白山堂前で、農民による種もみ交換が行われてきたことから、篔峯寺が身分にかかわらず信仰の対象となってきたことが伺い知れます。

時代とともに、篔峯寺の各坊の営みや地域住民の生活様式が変われども、両者のかかわり方・関係に大きな変化はありません。むしろ強固になってきています。

この地とともに、 1250年—

信仰に応え、

涌谷町の活性化へ――

人口減少や核家族化により一般的には寺院と地域住民との関係が希薄になる一方で、2020年の開山1250年を迎えるにあたり、篁峯寺の境内地の整備が進んでいます。

「人口が減少していく中で、運営に苦勞している寺院も少なくない。篁峯寺は、檀徒と信徒の割合が半々。古来からこの地の信仰の対象として有り続けてきたからこそ、自ら進んで信仰してくれる信徒の皆さんによって支えられている」と篁峯寺貫主の佐々木了章氏は話します。

近年、仁王門から白山堂にかけて、さまざまな行事やお詣りに訪れる人々が境内地を歩きやすいよう、石段や手すり、石畳が改修・整備されました。

「人々からの『信仰』に応

えるということをまずは考えなければなりません。そのことが、篁峯寺のこれからにつながっていく。世界農業遺産においても重要な位置づけにある篁峯寺。その雄大な大崎耕土を眺めに行ってみたい。宮



石畳が敷かれ、歩きやすくなった仁王門付近



篁峯寺貫主
佐々木了章氏

城県指定有形文化財に指定される観音堂にお詣りに行ってみたい。一般の人でもお詣りに行ってみたいというお寺に篁峯寺をすることができれば、涌谷町の経済循環・活性化に多少なりともつながれると考える」。

この篁峯寺の環境整備について、訪れる人々から、良い変化という評判を得ています。さらに現在増加している外国人訪日客への対応として、文化財の外国語の案内板整備も検討しています。

「宮城県指定有形文化財と



表参道の石段を照らす石灯ろう10基が設置されました

なったが、そのことに恥じないようなしなければならぬ。文化財や歴史だけではなく、白山祭の精進料理など、篁峯寺は、涌谷町随一の魅力を秘めている。これからの時代、山奥にある篁峯寺のようなお寺に神秘性を求めて訪れる人が増えてくるはず」。

2020年の諸行事に備えながら、訪れる人々の信仰に応えるべく、一つ一つ着実に整備が進められています。



株式会社仙北富士交通
代表取締役 佐藤和雄氏

篁峯寺の表参道に石灯ろうと夫婦杉の根元に釣り鐘を寄付した仙北富士交通の佐藤和雄代表。

「幼い頃、大天馬神社から篁峯寺まで続く道を通り、出店が並ぶ白山祭のにぎわいが思い出としてある」。自身も篁峯寺の檀家ではありながらバス会社を営み観光に携わる者として、篁岳山に活気を取り戻そうと、篁峯寺の皆さんとともに、観光振興に取り組みます。

「シニアでも今の観光客は、2時間程度の歩きは苦にしない。涌谷町にお金を落とすてもらえるよう、篁岳山をなんとかしたい。想像するだけで楽しい」と期待に胸を膨らませます。

篁岳山に

再び活気を灯すため――



歴史と文化財を守るため 地域防災力の向上を――

宮 城県指定有形文化財の
指定後の3月1日(金)

に、笹峯寺において、笹峯寺
各坊の皆さんとともに、遠田
消防署や涌谷町消防団、涌谷
町婦人防火交通安全クラブ連
合会の協力のもと、火災防ぎよ
訓練が実施されました。

この訓練は、宮城県指定有
形文化財の登録を受けて、実
施されたものです。

訓練では、観音堂から出火
したとして、初期消火訓練か
ら始まり、通報訓練、けが人
の搬送訓練、バケツリレーに
よる消火訓練、消防団・消防
署によるポンプ車を使った放
水訓練が実施されました。

この訓練と今後の笹峯寺の
防災対策について、涌谷町婦
人防火交通安全クラブ連合会
の理事であり、笹峯寺周辺の
住民でもある原田鈴子さんに
お話を聞きました。

「これまででは、自主防災組
織の単位で、一部の住民だけ
が参加し、電話での安否確認
などの防災訓練を行ってきま
した。今回のように、地域の
住民がほぼ全員が参加したの
は初めて」。

今回のような規模での火災

防ぎよ訓練は、笹峯寺として
は初めてでしたが、滞りなく
一連の訓練が遂行されました。

一方で、訓練後、笹峯寺周
辺に暮らす女性の皆さんが集
まり、反省会を開いたところ、
課題が浮き彫りになったと言
います。

「日中、笹峯寺周辺にいろ
のは、65歳以上の女性を中心
で、男性はほとんどいません。
また、今回はバケツリレーを
しましたが、観音堂周辺には
まとまった水がないため、実
際の火災では、代わりに消火
器を使う必要があります」。



涌谷町婦人防火交通安全
クラブ連合会本部理事
原田鈴子氏

観音堂の周辺は杉木立ですし、
笹峯寺が宮城県の文化財とし
て指定されたからには、それ
を守っていくためにも、地域
住民一人一人が消火器の使い
方を身に付けるなど、普段か
ら備えておかないといけませ
ん」。

今回の火災防ぎよ訓練を機
に、笹峯寺周辺の住民による
防火対策を考える集会を定期
的に開き、最低でも年に1回
は訓練を実施したいと考えて
います。高齢化の問題はある
ものの、地域で一丸となり、
防災力向上に向き合います。



春

笠岳山に春を告げるカタクリ

4月上旬頃から、笠峯寺境内地の北側にある夫婦杉付近の斜面一面が、美しい薄紫色をしたカタクリの花で埋め尽くされます。

このカタクリは、元々笠峯寺境内に群生していたものを、笠峯寺の皆さんが生育環境を保全したことで、春先に多くの観光客が訪れるまでになりました。



夏

炎に祈願する採燈大護摩供

7月第2土曜日に、石仏広場において、笠峯寺一山総出で、「除災招福・諸願成就」を祈願する炎の祭典です。

平成5年に、当時の大和亮尊貫主によって復活奉修されました。笠峯寺東大門の付近に「護摩坂」という名称があることから、元々笠峯寺において古くから行われていたことが推察されます。

笠峯寺の歳時記

—移ろう笠岳の四季—

受け継ぐ、守る、よみがえらせる、つくり出す。

四季折々、新旧さまざまな魅力が、笠峯寺にあります。

陽光に映える極彩色ドウダンツツジ

他の紅葉が見頃を過ぎた11月中旬に、笠峯寺の白山堂を取り囲むように群生するドウダンツツジが、赤やだいだい、黄、黄緑など鮮やかに色づきます。

また、近年、モミジ100本ほどが境内地に植樹され、訪れる人々の目を鮮やかに色づいた赤で楽しませてくれます。



秋

一年の天候を占う白山祭御弓神事

1月第4日曜日に、笠峯寺の白山堂前において、2人の御稚児さんが僧の介添えを受けながら、12本(うるう年は13本)の矢を射て、1年間の天候を占う神事です。

御弓神事が最も知られていますが、白山祭は、笠峯寺の正月行事として大晦日から始まり、3日の元三会、8日の大般若会を経て、例祭を迎えます。



冬

開山千二百五十年 篔峯寺の新時代の幕開け――

宮 城県指定有形文化財
(建造物)となり、20

20年には開山1250年を迎える篔峯寺。新たな時代に向け、準備が進んでいます。

その一つが、「寛文の鐘」として知られるぼん鐘の掛け

替えです。

涌谷町の邑主・伊達安芸宗重公の死後、その供養の意味も含めて奉納されたぼん鐘。

350年もの長い年月が金属疲労を及ぼし、破損の危険性が高まったとして、新たに鑄

造が必要となりました。

新たなぼん鐘は、平成30年1月12日(金)に、富山県高岡市にあるぼん鐘製作において国内シェア70%を占める鑄物

づくりのエキスパート「株式会社老子製作所」で、篔峯寺貫主の佐々木了章氏ほか2人の僧侶によつて法要が執り行

われた後、鑄造されました。鑄造されたぼん鐘は、すぐに掛け替えることはせず、現在、音色の調整を目的とした

3年間にわたる「枯らし」が施されています。

また、これまで鐘楼に掛けられていた「寛文の鐘」は、伊達安芸宗重公の事績を伝える文化財として、篔峯寺境内地に保存用の鐘楼を建設し、

取められる予定です。

伊達安芸公没後350年に合わせて、篔岳山に新たなぼん鐘の音色が響きわたります。

新たな元号が刻み込まれ完成するぼん鐘。掛け替えの時を待ちます。



篔岳山に響く
もう一つの鐘の音色――

篔 峯寺の境内にこだまする新たな鐘の音色。仙

北富士交通代表取締役の佐藤氏によつて寄付された洋風の鐘。名は、まだありません。

全国を巡る佐藤氏が、静岡県伊豆市の「恋人岬の愛を呼ぶ鐘」をヒントに、「夫婦杉に

あやかつて、恋人が鐘を鳴らすことで、仲睦まじく結ばれますように」という願いが込められています。

昔から歌われる「ここから拝むぞ篔岳さまよ、いつも縁があるように」の民謡に一節が現されています。



人 口減少社会において、涌谷町の活性化の手段の一つに、交流人口の増加があります。

訪れる人々をひきつける歴史と文化、景観、そして、ここに暮らす人々の信仰を超えた誇りが篔峯寺にあります。

1250年にわたり「奥州鎮護」としてこの地を守り続けてきた篔峯寺。私たちが涌

谷町の宝として誇りを共有し、次代へと継承していくことが、涌谷町の未来を描く一手につながります。

宗教の枠を超え

涌谷町の宝として――



瞳に宿る
未来への決意—

限りない未来へ巣立ち

平成30年度卒業式

3月9日(土)に涌谷中学校、3月18日(月)から20日(水)にかけて町立の幼稚園とこども園、小学校で、修了式と卒業式が執り行われ、これまで過ごしてきた学び舎を巣立っていきました。

涌谷中学校の卒業生は、132人。統合後2年目に入學してきた生徒たちは、涌谷中学校としての伝統を受け継ぎつつ新たな伝統を築いてきました。答辞では、生徒代表の坪山裕太郎さんが、上野公園での地域文化学習の発表をはじめとした3年間の思い出とともに、先輩たちに「私たちのことを先輩と呼んでくれてありがとう。さらなる涌中の発展を目指す中でさまざまな困難があると思いますが、迷ってしまつた時は卒業制作の生徒会歌を見て仲間と前へ歩みを進めてください」と感謝と激励を伝えました。

小学校の卒業式では、袴やスーツに身を包み、大人の雰囲気を感じました。

こども園・幼稚園の修了式では、あどけなさをのぞかせながら、修了証書の授与やこれからの抱負、感謝の気持ちを立派に伝え、涙を誘いました。

《写真解説》

①凛として受け取る②中学校生活が凝縮した答辞③統合後4年目の一体感を感じる記念合唱④校歌とともに3年間の思い出が去来する⑤恩師の目にも涙⑥気持ちも背筋もピンと⑦堂々と小学校の目標を発表⑧日頃の感謝を伝える⑨きちんとお話を聞けるようになりました⑩感謝の気持ちがかこもった記念制作⑪袴が醸す大人の雰囲気⑫出席するすべての人に伝える感謝⑬成長を感じさせる機敏な身のこなし





健(検)診を受けて商品券を当てよう

国保インセンティブ事業の当選者確定

2月28日(木)に、平成30年度「涌谷町国保インセンティブ事業」の抽選会が行われました。

厚生労働省の「保険者努力支援制度」を活用したもので、働き盛りの皆さんに各種検診を受診し病気の早期発見・早期治療につながるセルフケアができるようにするためのきっかけづくりとして実施しました。

40歳～74歳の涌谷町国民健康保険の被保険者を対象としたもので、当選者には商品券が贈られました。



なりたい自分へのはじめの一歩

涌谷中学校でキャリアセミナー

2月28日(木)に、涌谷中学校において、1年生の生徒を対象としたキャリアセミナーが開催されました。

涌谷中学校では、これまで2年生が職場体験として将来就きたいと考える職場を訪問し、それぞれの仕事の現場を体験するというプログラムを実施してきました。今回のキャリアセミナーは、職場体験の前に、より具体的に望ましい職業観を育て、その職業に対する知識を広げつつ、社会で実際に働く皆さんと交流することによって進路への意識を高めることを目的としたものです。

講師には、涌谷町内の農業の第一線で活躍する生産者や福祉、医療、保育、醸造家の皆さんをはじめとして、公務員としての自衛隊や消防士、さらには、最新テクノロジーにかかわる通信会社や日々研さんを積む飲食店経営者といった10人が登壇し、それぞれの仕事の日常とやりがいに加えて、仕事の現場で直面する苦勞についても講演されました。

話を聞いた生徒の一人は、「自分の将来像に関係する講師を選択しました。その将来像を実現するため、これからどんなことをすればいいのか考える機会となりました」と前向きにとらえていました。



雪国の文化と生活を学ぶ

大石田町との交流と雪国体験

2月23日(土)24日(日)の2日間、山形県大石田町で涌谷中学校の生徒18人が雪国を体験してきました。

初日は、除雪ボランティアと雪灯ろうづくり、2日目は、大石田中学校の生徒との雪遊び交流とそば打ち体験というプログラムでした。例年よりも降雪が少ないということでしたが、それでも積雪は1m以上。普段見ることのない雪の量に驚いていました。文化や生活環境の違いを感じつつ、若い世代同士が親睦を深める機会となりました。

おひさまカフェを開催

2月27日(水)に『おひさまカフェ』を開催。毎回好評の『おひさまカフェ』はアットホームな雰囲気の中、お茶を飲みながら子育ての話や日々の事をおしゃべりして楽しんでいます。今回は入園や入学に向けての疑問や相談などが話の中心になっていました。

お楽しみのデザートは、スタッフ手作りの「ほうじ茶ラテゼリー」「りんごとレーズンのケーキ」など6種類。ママ向けの絵本読み聞かせも行い、子育てであるある話だったのでウルウルになってしまった方もいました。こころのリフレッシュになる時間を過ごすことができました。



しろやま さん 城山の金さん徒然日記

涌谷町と気仙沼市の産金の縁

涌谷町が「金」にまつわる歴史を持つ自治体と連携をとり、「日本遺産」の認定を目指しておることは皆さん、ご存じかと思う。その連携している自治体の一つ、気仙沼市に本社があるオノデラコーポレーション殿が営むコーヒー店「アンカーコーヒー」「マザーポートコーヒー」において、涌谷町産「金のいぶき」と気仙沼市特産の「メカジキ」がマリアージュした「金のメカカレー」がこのたび、提供されることとなった。

提供店舗は、気仙沼市内の2店舗と仙台市にある東北大学病院前の1店舗となっておる。ぜひ、お出かけの際には、黄金のマリアージュを楽しんでみてください。



写真) 金のいぶきとメカジキの「金のマリアージュ」



こちら-町長コラム- 町長室です

財政再生で地域包括ケアシステムの発展充実

財政再建大綱素案の概要がまとまりました。

基本理念として地域の発展や町民の幸福度を向上させるため、必要な経営資源を効果的かつ効率的に活用することで財政再生を果たし、持続可能な町政運営を確立させるとともに協働のまちづくりの実現を目指します。

基本方針として、次の4項目を掲げています。

- 1) コスト感覚を取り入れた合理化の推進
- 2) 人材の育成
- 3) 固定観念からの脱却、改革精神の醸成
- 4) 町民の福祉向上のための協働のまちづくり

町長を本部長に、教育長やセンター長、全課長を構成員に、2019～2023年度までの5カ年を計画期間とします。

先日、厚生労働省東北厚生局長が涌谷町の地域包括ケアシステムを視察に訪れました。全国に先駆けて30年前に地域包括ケアに取り組んでいることに「認識不足でした」と話され、その先進事例を学ばせていただきたいとのことでした。

国がこれから本格的に地域包括ケアシステムに取り組むにあたり涌谷町を先進地として訪れたのだと思います。国が涌谷町の地域包括ケアを認めたのです。私は国の姿勢を評価するとともに、国に働きかけ財政再生を果たし、涌谷町の地域包括ケアをさらに充実発展させていきたい。このことを訴えていく覚悟です。

涌谷町長 大橋信夫

【町長日程(平成31年2月15日～3月14日)】

日程	行事名	場所
18	小・中学校特別支援学級卒業・修了を祝う会 涌谷町空き家対策協議会	涌谷公民館 役場
19	JAみどりの仙台小ねぎ部会通常総会	JAみどりの涌谷営農センター
20	東北鞍馬競技大会PR	岩手方面
23	自主防災組織講演会	町民医療福祉センター
25	大崎地域広域行政事務組合組合会	大崎地域広域行政事務組合庁舎
26	ものづくり企業連絡会	アルプスアルパイン 働涌谷工場
27	東北鞍馬競技大会PR	岩手方面
28	涌谷町健康と福祉の丘運営委員会本会議	町民医療福祉センター
1	涌谷高校卒業式	涌谷高校
7~15	涌谷町議会定例会3月会議	議場
9	涌谷中学校卒業式	涌谷中学校
10	涌谷町ソフトボール大会	勤労福祉センター

『健全で魅力ある涌谷町』へ

平成31年度一般会計当初予算

66億6,459万3千円

平成31年度の当初予算が決まりました。

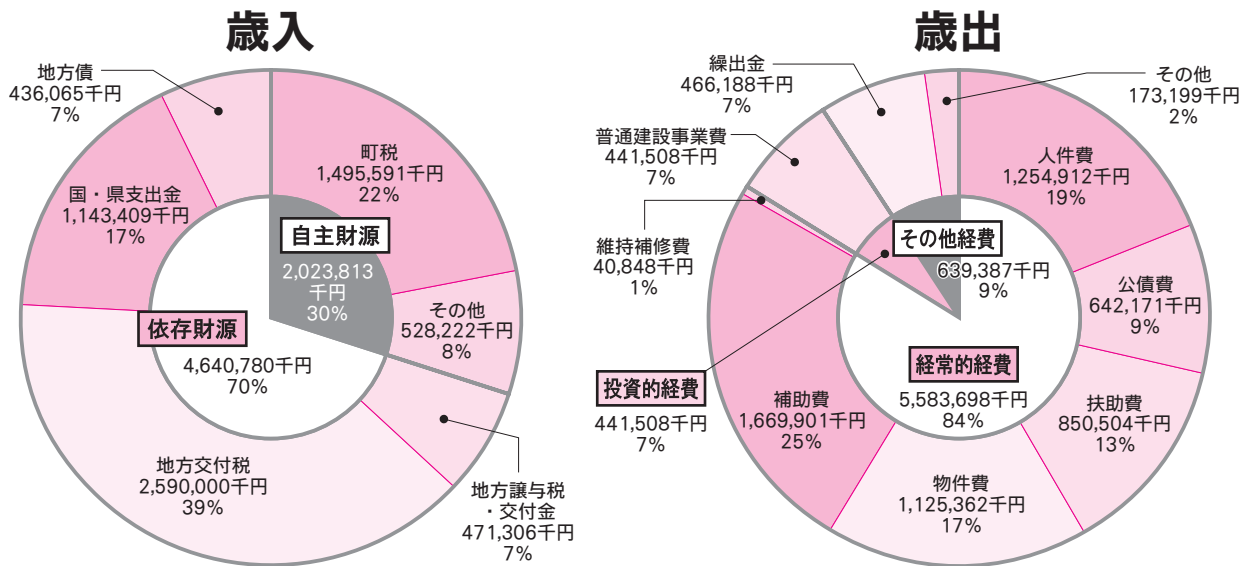
当町は本年1月30日に『財政非常事態宣言』を発令したところですが、今年度は、行財政の健全化と第5次総合計画で掲げている『—自然・歴史を活かした健康輝くまち—黄金花咲く交流の郷 わくや』を目標に、これまでの事業を評価検証しつつ、それぞれの事業が相互作用により新たな創造を起こし、賑わいある交流を進め、町の誇りが広がり、世代を通じて定住できるまちづくりを目指します。

【予算概要】

昨年度と比べると4億6,797万6千円(6.6%)減となり、町債の借換等を除いた実質通常分では4億584万6千円(5.8%)の減となりました。

貴重な自主財源である町税は、個人町民税、法人町民税、固定資産税、軽自動車税で増収を見込み、2.1%増の14億9,559万1千円を計上しました。

歳出においては、行政経費の見直し、効率化などを図り、着実に総合計画を推進する予算編成としましたが、9,000万円の財源不足となり、基金（貯金）を取り崩すこととしました。



各特別会計・企業会計当初予算

特別会計

会計名	金額	会計名	金額	会計名	金額
国民健康保険特別会計	20億2,093万2千円	後期高齢者医療保険特別会計	1億5,744万3千円	介護保険特別会計	18億3,777万8千円

企業会計

会計名・区分	金額		会計名・区分	金額	
	収入	支出		収入	支出
水道事業会計	収益的	4億3,546万6千円	下水道事業会計	収益的	5億5,402万円
	資本的	1,939万6千円		資本的	1億4,902万3千円
国民健康保険病院事業会計	収益的	20億3,556万6千円	老人保健施設事業会計	収益的	5億1,740万3千円
	資本的	7,985万7千円		資本的	1,432万9千円
訪問看護ステーション事業会計	収益的	6,205万6千円			
	資本的	—			

主な事業（一般会計）

各事業費については万円未満を切り捨てて掲載しています。

NEW

新規事業



拡充事業

継続

継続事業

全課共通
事業案：行財政改革

これまでの事業を見直し、町民生活への影響を最小限に抑えつつ、
財政の健全化を推進していきます。

総務課

- 継続 交通安全対策事業 1,200万円
交通安全指導隊や関係機関と連携し、交通事故抑止を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 継続 防犯事業 1,160万円
関係機関や皆さんと一緒に、安全安心なまちづくりを目指します。
- 継続 消防・防災事業 2億5,491万円
関係機関との連携を強化し、災害に備えるとともに、深刻な被害が生じないまちを目指します。

まちづくり推進課

- 継続 わくや新生活応援事業 500万円
移住世帯・新婚世帯に対し支援を行い、移住定住を促進し、人口減少の抑制を図ります。
- NEW 空き家対策総合支援事業 2,050万円
空き家を活用し、観光拠点・宿泊施設を整備運営する民間団体を支援し、活気あるまちづくりを目指します。
- 継続 企業誘致事業 186万円
町内における雇用の創出、地域経済の活性化のため、積極的に企業訪問を行うなど、企業誘致を目指します。

福祉課

- NEW 包括支援体制構築事業 1,100万円
福祉の包括的支援体制の構築や地域住民による生活支援体制の整備を図ります。
- NEW わくや地域子育て応援団事業 192万円
住民相互による子育て支援体制「わくや地域子育て応援団」の育成や利用促進を図ります。
- NEW 学童保育施設新築事業 1億7,632万円
西地区の学童クラブを統合し、涌谷第一小学校敷地内に学童保育施設を新築することで、対象児童の拡大と児童の安全に対応します。

教育総務課

- NEW 教育施設等長寿命化計画策定業務 1,000万円
学校・幼稚園・給食センター・こども園の計画を策定し、安全安心な教育環境の効率的な維持管理に努めます。
- 継続 わくや子どもの心のケアハウス事業 484万円
小中学生が抱える心の問題に対応し、不登校など諸問題の改善を目指します。
- 継続 イングリッシュキャンプ事業 208万円
英語の「聞く・話す」能力の向上や英語で課題を考える力を育むなど、グローバルな人材を育成します。

生涯学習課

- 継続 生涯学習促進事業 23万円
各年代に応じた知識などを養成し、社会参加、生きがいづくりなどの推進を図ります。
- NEW 文化財保護・活用事業 1,258万円
歴史遺産や文化財などの保護や活用をして、交流人口の創出や地域の活性化を図ります。
- 継続 生涯スポーツ推進 234万円
スポーツ振興事業を推進し、スポーツを通して健康増進など明るく活気に富む地域づくりを目指します。

企画財政課

- 継続 情報発信事業 365万円
ホームページや広報などを活用した情報発信を強化し、涌谷町の存在・活動をアピールします。
- NEW プレミアム商品券事業 826万円
低所得者などに対して商品券を発行することで、消費税・地方消費税引き上げの影響の緩和を図ります。
- NEW 地域おこし協力隊事業 1,775万円
都市住民を協力隊に委嘱し、柔軟な発想による地域おこしを推進します。

農林振興課

- NEW 地域ブランド米創出事業 348万円
銘柄米「金のいぶき」などに対し、涌谷ブランド化を図り、高付加価値米を創出する取り組みを推進します。
- 継続 県営ほ場整備関連事業 5,800万円
生産基盤のほ場を整備し、農家経営の効率化などを図り、所得向上を目指します。

町民生活課

- 継続 空き家対策事業 7万円
空き家バンクを開設し、管理不全空き家解消など生活環境の改善を図ります。

建設課

- NEW 危険ブロック塀等助成事業 30万円
倒壊の危険性が高いブロック塀の除却費用を助成し、除却を促進し、倒壊事故の防止を図ります。
- 継続 道路新設改良事業 1億2,900万円
計画的に町道の改良などを実施。今年度は大谷地線改良、橋りょう補修などをし、適正な環境整備に努めます。
- NEW 公営住宅外壁改修事業 6,008万円
八雲住宅3号棟の外壁を改修することにより、建物の長寿命化を図ります。

健康課

- 継続 地域医療対策事業 3,412万円
関係団体と連携し地域医療を確保します。大崎・石巻両圏域での救急体制の充実を図ります。
- 継続 健康づくり推進事業 344万円
健康づくりのリーダーとなる健康推進員とともに、健康寿命の延伸を目指した健康づくりを推進します。
- NEW 予防接種事業 3,275万円
これまでの各種予防接種による感染症対策に加え、全国的な流行を踏まえ、風しんに関する追加的対策を実施し、感染の拡大を防止します。

総務管理課

- 継続 老人保健施設対策 2,680万円
介護サービスを提供する町立老人保健施設に対し負担金を支出し、安定した介護サービスを提供していきます。
- 継続 病院対策 2億4,389万円
地域包括ケアシステム確立に重要な位置付けとなる町立病院運営に対し負担をすることにより、一人一人がかけがえのない人生を送れることを目指します。



桜花爛漫 涌谷に、 春來たる。

▼問い合わせ先

まちづくり推進課商工観光班

☎ 43-2119

涌谷町が一年のうちで最も輝く「春」が今年もきます。
各地でさまざまな催しが開催されます。
涌谷が誇る春を楽しむにお出かけください。

